特集 社会ネットワーク分析の展開

会計・ファイナンスのネットワーク研究と課題

原　田　春　貴

目　　次

1．はじめに
2．社会ネットワーク分析の基本的な考え方
3．会計・ファイナンス領域におけるネットワーク研究
4．ネットワーク研究の方法論的課題と展開
5．ネットワーク表現と分析単位の選択
6．おわりに

本稿は、会計・ファイナンスにおけるネットワーク研究の主要な研究領域と方法論的展開を整理する。役員、監査人、アナリストを介した人的関係や、株式所有、取引関係を扱う研究を概観し、関係形成の内生性と因果識別の課題を検討する。さらに、条件付き一様グラフ検定、指数ランダムグラフモデル、ハイパーグラフの役割を整理し、共通所有を例に、研究目的と経済的メカニズムに即した分析単位とネットワーク表現の選択を論じる。

1．はじめに

企業の行動や業績は、企業固有の属性だけでなく、役員、株主、監査人、アナリストを介した企業間の関係にも左右される。社会ネットワーク分析（social network analysis）は、これらの主体をノード、主体間の関係をエッジとして表すことで、個別主体の属性分析では捉えにくい情報伝播、モニタリング、資源配分およびリスク波及の経路を明らかにすることができる。会計・ファイナンス研究でも適用例は増えているが、同じネットワークという用語の下で、人的接続、所有関係、取引関係など、異なる関係が分析対象とされている。

Bianchi *et al.*［2023］は、会計・ファイナンス領域における社会ネットワーク研究を包括的に整理している。本稿はこの議論を踏まえつつ、各研究について、第1にノードとエッジをどのように定義するか、第2にどの経済的メカニズムを想定するか、第3にどの企業行動または業績との関係を検討するか、第4に結果の解釈にどのような限界があるか、という共通の観点から比較する。さらに、ネットワークを所与とする研究から、構造の非ランダム性、関係形成、ネットワーク表現

原田　春貴（はらだ　はるき）
大阪公立大学大学院経営学研究科博士後期課程在籍。

©日本証券アナリスト協会　2026